第34回市長対談

# 選択と集中でメリハリある計画を

三重大学理事・副学長 鶴岡 信治さん

津市長 前葉泰幸

**平成29年５月25日、津市の新たな総合計画の策定に向けての審議会の会長をお務めいただいている三重大学理事・副学長の鶴岡信治さんをお迎えし、合併後12年目を迎えた津市のまちづくりについて前葉泰幸市長がお話を伺いました。**

撮影／市本庁舎

**市長**　鶴岡先生は三重大学にお勤めです。まずは津市とのご縁をお聞かせください。

**鶴岡**　私は岐阜県各務原市出身で、岐阜大学を卒業し、名古屋大学の大学院に進んだ後、三重大学に就職しました。それから38年ずっと津市に住んでおり、２人の子どもを育てました。

**市長**　今の津のまちについて、どんな印象を持っていらっしゃいますか。

**鶴岡**　津市の良いところは、海があって山もあって、自然環境に恵まれているところですね。私の出身地の岐阜県は海が無いところですが、三重大学はシーサイドキャンパスで海に面しているので、そこが一番気に入っています。それから、やさしい人が多いですね。これは地方都市の良さが一番よく表れているところだと思います。また名古屋、京都、大阪へ出掛けるにも非常に便利なところですね。この津市が、ますます良くなるように、総合計画審議会で議論を進めています。

**市長**　ご審議いただいている新しい総合計画は、自治体の基本的な方向性を示すものですが、平成23年の地方自治法の改正で、策定は義務では無くなりました。以前はどこの自治体でも同じようなスタイルの総合計画がありましたが、今はむしろ各自治体で自分たちの考え方や独自性、実効性のあるものが求められています。我々も頭を柔らかくして取り組んでいるところで、津市ではこれまでは前期５年、後期５年としていた基本計画の期間を10年にするとともに、基本構想は将来の大きな方向性だけにして期間を定めないこととしました。このような状況のもと、実際に審議会ではどのようなご議論がなされているのかをお話しいただけますか。

**鶴岡**　「計画を作ること自体が目的になってはいけない」という第１回の審議会での市長の発言が、委員の方々の頭にあります。やはり、目的は明確にしないといけません。具体性があって、趣旨がはっきりして、はじめて計画が実質的なものになる。だから、津市の総合計画についても、市民の皆さんに十分理解していただき